

JAQG 協賛メンバー訪問 ー株式会社レーザックス様ー

1. はじめに

航空宇宙品質センター（JAQG）は 2001 年の創設から 25 周年を迎えます。この記念企画の一環として、全国の協賛メンバー企業様への訪問活動を実施しております。JAQG では年に一度、活動報告会を開催し、多くのメンバー企業様にご参加いただいておりますが、「現場の生の声を十分に拾い上げられていないのではないか」という問題意識がありました。

本企画は、9100 規格の改定動向や実務上の課題について率直な意見交換を行い、現場の声を直接伺うとともに、IAQG および JAQG に対して親近感を持っていただくことを目的としています。

この企画の最後の一社（12 弾）として、2026 年 9 月 29 日、レーザ加工技術を得意とする株式会社レーザックス様（資本金 9,000 万円、本社：愛知県知立市）への訪問を実施いたしました。

2. 株式会社レーザックス様のご紹介

同社は 1941 年 4 月、中島飛行機半田工場の協力会社として創業された「近藤航空機製作所」がルーツであり、創業時から航空宇宙産業へのかかわりを持っておられます。当初は精密鋳物を主力商品とされていたそうですが、その後の業務拡大においてレーザ加工も行うようになり、1988 年に「株式会社レーザックス」に社名変更されました。2026 年には知立本社に新社屋「CUBE-X」を竣工されるなど、進化を続けておられます。今回は CUBE-X にてご対応頂きました。



2026 年 1 月に利用開始された CUBE-X

航空宇宙分野においては、2008 年に AS9100 認証、2009 年に Nadcap 認証をそれぞれ取得され、難度の高い構造部品やエンジン関連部品等のレーザ加工を担っておられます。現在の航空宇宙分野の売上比率は全体の約 1 割だそうです。

当日は、同社の近藤社長、河井部長、杉浦様にご対応いただきました。JAQG 側からは、渡邊様、松根様（三菱重工業）、城福（SJAC）が訪問いたしました。

なお、下の写真で掲げて頂いている青の四角の布は、今回お土産として持参した IAQG のメガネ拭きです。



左から、松根様、渡邊様（三菱重工業）、近藤様、河井様、杉浦様（レーザックス）、城福（SJAC）

3. JAQG 説明および規格の動向

JAQG/IAQG の活動概要、および現在進行中の 9100 規格改定（JIS Q 9100 から民間規格「IA9100」への移行など）の最新動向について説明を行いました。

併せて、中小規模・低複雑度の製品を対象とした新規格「9150 規格（Foundational QMS）」の概念や、QMS の成熟度評価ツールである AIMM（Aerospace Industry Maturity Model）、OASIS Insight、SCMH などの各種支援ツールについても紹介いたしました。

今回持参した 9100 改正内容のまとめ資料は大変有用であると好評でした。JAQG として、今後もメンバー会社の社内教育などにご活用頂けるような資料提供ができればと感じました。

4. 意見交換

4.1. 売上規模に対する 9100 認証維持コスト

同社における航空宇宙分野の売上割合に対する 9100 認証等の維持にかかるコスト負担が大

きいことが悩みであるとのことでした。また、高難度の作業であるがそれから得られる収益とのギャップも同様な悩みであるとのことでした。

4.2. 情報セキュリティへの取り組みについて

現在、ISO 9001、ISO 14001、JIS Q 9100 に関連する社内規程の整合性を図り、再整理を行う作業を推進中であるそうです。情報セキュリティに関しては、総務部での管理手順とひも付けることで、認証・運用コストを抑えた運用を目指しているそうです。

4.3. 生成 AI について

生成 AI について、同社では、「Copilot Basic」を全社員が利用できるようにしていますが、「Copilot Premium」については、申請を必須とし、適格者のみに利用を許可するという運用を検討しているそうです。どのような AI 利用による品質への影響と言う改正部分について、何が対象となるかと言う検討が必要になるという議論がありました。

4.4. 審査員の解釈のバラつきについて

同社は海外認証機関から AS9100 による認証を受けておられます。過去には外国人審査員について「審査員によって解釈や指摘の細かさが異なる」ことに対する戸惑いがあったとのことでした。もっとも、その時の厳しい指摘は今となってはありがたい指摘であったともおっしゃっていました。その後、日本人審査員になり、そのような極端な例はなくなっているそうです。

審査員によるバラつきを抑制するため、IAQG では IAQG Authentication（審査員認証・平準化の流れ）を進め、審査の標準化・質の平準化を図っていることを紹介しました。

4.5. JAQG による情報提供について

JAQG がホームページで提供している Nadcap の AC チェックリスト（日本語訳）や SCM H（サプライチェーンマネジメントハンドブック）については、「現場の管理や教育において非常に役に立っている」という高い評価と感謝の言葉をいただきました。

当方からは、IAQG Podcast およびその翻訳版について JAQG ホームページに掲載していることを紹介し、IAQG の生の声を是非聞いてみて欲しいと要望しました。



5. 株式会社レーザックス様の声

当日は雨模様となってしまいましたが、ご来社下さいまして誠にありがとうございました。IA9100 への移行に関しては、部門の中期計画の一つとして取り組んでおり、各項の改正概要についての詳細情報は、移行準備を進める上で非常に参考になりました。また、これまで JAQG 活動報告会に出席していないメンバーも、JAQG/IAQG の概要や目的・活動内容などを、より身近に知ることができて大変良い機会となりました。

この度の協賛メンバー先への訪問活動は、25 周年を迎えられた記念企画の一環とのことでございましたが、我々のような協賛メンバー側にとっても、有意義なものになると思われまので、またこのような機会がありましたら是非ご希望されることを推奨させていただきます。

6. 最後に

社内での航空宇宙の売上比率が相対的に低い場合、9100 認証や Nadcap 維持の書類・コストに見合った売り上げが得られているかという負担感は、開発中の 9150 規格 (Foundational QMS) の普及や、今後の審査運用の適正化を考える上で重要なヒントとなりました。

お忙しい中、ご対応頂いた株式会社レーザックスの皆様、心より感謝申し上げます。

以上